

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



◀娘さんの名前から取った「リトルファームちえ」は1年契約のレクリエーション農園です。今年も沢山の利用者がおいしい野菜作りに挑戦しています

今月の
ひと

下飯田の元気印

市民に愛されるレクリエーション農園

畑には不思議な魅力があるらしい

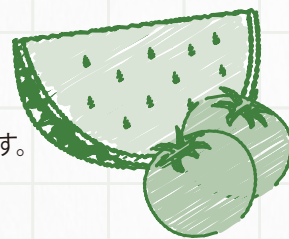
「自宅だった場所はきれいに整地されて、敷地を囲んでいた居久根も切ったから、なんだか急に見晴らしがよくなっちゃった」と、農園を管理する高橋オクラさんは語ってくれました。若林区下飯田、東部道路の西側に高橋さんが開設するレクリエーション農園「リトルファームちえ」があります。昨年の震災で自宅が壊れ、隣接する農園もヘドロやガレキで使えない状態になりました。

「びっくりしたのは、利用者の皆さんが、畑に積もったヘドロやガレキをきれいに片付けてくれたんだよ」と高橋さんはうれしそうに話します。

「それはそれはきれいになった畑で、去年はスイカやトマトが沢山採れたもんだから、皆さん喜んでね。私もお裾分けを頂いたけど、本当に甘くておいしかったです」利用者との交流も盛んで、「私のほうが負けるくらい、皆さん熱心ですよ。色々勉強もして、上手に育てています。皆さんからパワーをもらっているんです」

お天気がよければ、沖野の借り上げ仮設住宅から下飯田の農園まで自転車で往復する高橋さんに、「毎日精が出るね」「自動車に気をつけて帰るんだよ」と近所の友達が声をかけてくれます。

「下飯田に嫁いで60年も過ぎたけど、自分が80歳を越えたなんて実感がないんだよね」と、高橋さんは今日も六郷の田んぼ道を自転車で走っています。



2012

6

第7号

受け継がれる仙台湾の漁

～荒浜漁師復活の日～

品質日本一といわれる赤貝の漁場・仙台湾は、長い間、荒浜の漁師たちにとって恵みをもたらす場所でした。しかし昨年の津波によりほとんどの船が流失、漁具も失うなどの被害に遭いました。そんな過酷な状況においても、荒浜漁師たちは漁の復活に向け立ち上がっています。



▲松木波男さんと喜代丸



脈々と受け継がれた 荒浜の漁業とは

かつては、深沼海岸の砂浜から入出漁していた荒浜の漁業。砂浜には、とやと呼ばれにぎわった直売所もあり、多くの漁師が活躍していました。現代になり港を仙台湾新港に移し、漁師の数は八軒まで激減したものの、赤貝、ホッキ貝に小玉貝などの貝漁、定置網漁などの家業を受け継いでいます。特に、赤貝はその品質が日本一といわれ、荒浜の漁師にとって漁の中心となっています。

津波による漁船流失 造船を待つ漁師たち

宮城県漁業協同組合仙台湾支所の支所長・遠藤哲也さんによると、仙台湾支所の管轄では、震災前は宮城野区も

復興第一号「喜代丸」の出漁

四月末、七ヶ浜町の造船所から仙台湾新港に向け、一隻の船が進水しました。中古の釣り船を改造した赤貝漁船「喜代丸」です。漁協仙台湾支所所属で、かつて残った漁船のうち二隻がすでに操業していたものの、震災後作られた赤貝漁船としては初の操業になります。船主は先代の喜代丸を津波で失ってから約一年ぶりに海上に出た荒浜の漁師、松木波男さん。

進水式の翌日には、早速操業を開始した喜代丸が大漁の赤貝とともに港に戻りました。津波にも負けず、赤貝はしっかり仙台湾で育っていたのです。



選別され箱に並べられた赤貝

含め五十三隻の船が所属、そのほとんどが津波で流され、残ったのはわずか八隻。そんな過酷な状況でも廃業する人は無く、それぞれに少しでも早く新造船を受注できる造船所や、中古船を探し回りました。

代替の漁船購入については国と県の補助制度を利用し漁協が所有者となり、各漁師が年間の利用料を支払うリース形式になるといいます。全国の造船所がフル稼働で船の生産や中古船の修理、改造をするなか漁師たちはガレキ処理や、失った漁具の仕込みなどの作業をしながら、漁船の完成を心待ちにしています。

仙台湾の水産物



ホッキ貝

甘みとシコシコとした歯ごたえが特徴で、とくに紫の色の付いた部分が美味といわれています。宮城県では種苗を中間育成し放流するなどして、安定した漁獲を保っています。



赤貝

いわずと知れた高級二枚貝。全国ブランドの名取市関上港と仙台湾水揚げはどちらも同じ漁場で獲れたものです。仙台湾産の品質は日本一といわれ、上品な甘みと香りで食通を魅了しています。



定置網漁

長い網を仕掛け魚を誘導し捕獲する定置網漁では、カレイやイワシ、サバなどが水揚げされます。



小玉貝

沿岸部では「ナミノコ」とも呼ばれ、アサリよりひと回り小さく、固体によって異なる殻の模様が特徴的です。ダシがよく、お吸い物などに使われます。



以前は荒浜の自宅で行っていた選別作業現在は水揚げ後、その場で行っています

岸で選別をする妻のあきさん、娘の芳子さんも波男さんのイキイキとした様子に安堵の表情を浮かべ、「(波男さんは)とにかく海に出ていればこ機嫌なんだよ」と教えてくれました。「やっぱり海は気持ちがいいねえ」波男さんは第二の船出を大漁で迎え、満面の笑みで海を見つめました。

荒浜漁師の復活まで

船の流失を免れた人、造船を待つ人、それぞれが代々続いてきた荒浜漁師の灯火を絶やしてなるかと、立ち上がっています。仙台湾の船が揃うまであと少し。震災前よりも活気付くことが期待されます。

仙台湾水揚げブランドを

「赤貝をはじめ、仙台湾で獲れるものは質が良くても全国的な知名度はまだ」と語る佐藤さん。乱獲により仙台湾の赤貝の数が激減した10数年前、佐藤さんは行政機関と協力し、赤貝の稚貝を放流し試験養殖を行い漁獲を安定させました。そんな経験から、貴重な資源を守るために「仙台湾の水産物の知名度、価値を上げれば、少量の漁獲ですむようになる」と考えています。「水揚げした水産物をイベントなどで浜売りして、皆においしさを知ってもらえたらいいな。それには漁師一丸となって取り組まないといけない。俺の船も(赤貝禁漁の7、8月が明けた)9月までには出来上がっているだろう。そのころには皆の船も完成しているだろうから、それからがスタート。とにかく頑張らねえ」と意気込みを新たにしていました。



宮城県漁業協同組合 仙台湾支所小委員会 会長 佐藤政智さん

貝類の底引き網漁、定置網漁を行う小委員会の会長。現在、震災で失った愛船「智栄(ともえ)丸」に代わる船の改造を心待ちにしています。



「皆揃って出漁し(海へ)出たぞー!」と無線で声を掛け合いたい」と吉男さん(左)優子さん

津波から助かった一隻 父娘で仲間を待つ「だいよし丸」

あの日、津波に流されたものの、後日七ヶ浜町の海で発見された赤貝漁船「だいよし丸」。ところどころ破損があったものの致命的な欠損は無く、急ぎ修理を済ませた船主の佐藤吉男さんは、昨年9月から操業を再開。全国の食通が待ちわびた仙台湾の赤貝を震災後初めて市場に出したときは「本当にうれしかった」といいます。「仙台湾の漁船も、同じ漁場で好敵手の関上港の漁船も全てが一斉に出港するのが本当の復興ですね」とは選別を担当する娘の優子さん。吉男さんと二人三脚で歩みながら仲間が海へ戻るのを待ちます。

8日(日) さき子さん白馬に乗る!
(七郷中央公園仮設住宅)



気持ちよく晴れ上がった青空の下で、集まった住人から「さきさん乗ってみさい」と声がかかるや、颯爽と白馬にまたがり、仮設駐車場をぐるりと1周したのは80歳のさき子さん。山形県から来た前森高原ホースセラピーのひとコマでした。

20日(金)

いい匂いだこと
(荒井小学校用地仮設住宅)
とてもにぎやかにポップ作りが開催されました。ラベンダーなどを使って、素敵な香りのオリジナルポップができました。



21日(土)

千羽鶴のお供え
(深沼海岸)
荒浜にお住まいの方々が深沼海岸に建つ慰霊碑を訪れました。皆で心を込めて折った千羽鶴を供え犠牲者の冥福をお祈りしました。



13日(金)

福幸ストラップ作り
(荒井小学校用地仮設住宅)
かわいいカエルのストラップを手作りする「鶴亀会」の作業場を訪問。表情が1つひとつ微妙に違うので、相性のよさそうなお気に入りを見つかるのも楽しみです。



14日(土)

今度は私達が来ましたよ〜!
(日辺グラウンド仮設住宅)
2月に東京で開かれた「東日本大震災を語る会」で被災体験を語った大内さんを訪ねて、同会参加者の鳥居さん、関亦さん、永山さんが東京から来てくれました。



24日(火) 東北 Cotton のタペストリー
(宮城県庁)



昨年、名取市と荒浜で始まった綿花栽培。収穫したコットンを使い織り上げられたタペストリーを生産者たちが県に贈呈しました。縦糸には名取産、横糸には荒浜産のコットンを使用。荒浜の体験を書いたとされる島崎藤村の「潮音」をイメージし、波をバックに稲穂が伸びる様子が描かれています。

村井知事と荒浜地区の生産者

17日(火) 被災自宅跡地で野菜作り
(荒浜)



被災した自宅跡地で野菜作りに精を出す大学直さんに出会いました。除塩していないものの、青々と立派に育った野菜を前に「売ってる野菜とは味が違うんだよ」と自慢げに微笑む大学さんでした。

28日(土) 移動サロンなでしこ
(定義山・天文台)



JR南小泉仮設住宅のなでしこ会が借り上げ住宅の方々と行くバスツアーを開催。お天気に恵まれ、汗ばむ陽気のなかプチ旅行を満喫。仙台市天文台や定義山・西方寺を回り、親睦を深めました。

18日(水) ネコのお宅拝見!
(荒浜)



荒浜にポツンと停めてある車の中…、実は可愛いネコたちのすみかでした。今後は近くでリフォーム中の佐藤さんの家に引越します。

30日(月・祝) みんなで描いた鯉のぼり〜
(荒井小学校用地仮設住宅)



愛知県などから来た団体の催しに、大人も子どもも参加して、ユニークな模様の鯉のぼりが出来ました。あれっ? 何か変だと思ったら、順番が違っていますよ。緋鯉が上になっちゃった。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体の話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。

▶2日間にわたり、各界の専門家が集まり、荒浜地区の再生に関して活発な討議が行われました



5月12日(土)、13日(日)荒浜フォーラム

- 内容**
- 12日
 - 1) 防災型土地利用規制と津波復興計画の論点
 - 2) 被災者の本音、被災者が聞く —当事者主導の地域再生に向けて
 - 3) 復興計画策定の(あるべき論)
 - 13日
 - 1) テーブルトーク
 - 2) 全体討議
 - 3) コメンテーターのお話

当日の様子 都市計画、防災、地元学などの専門家による話題提供やディスカッションと荒浜住民を交えたグループ討議を通して、荒浜地区の将来像を協議しました。国内外のまちづくりの実例や、都市計画におけるリスクマネジメントのあり方などについて専門家の討議もあり、ふるさとの再生に関しては荒浜に対する住民の強い思いが語られました。

問い合わせ先: 代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議: 毎週月曜日 19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

テーブルに広げた地図上に、建物の模型を並べて、日照の具合や駐車場の配置について検討しました



4月27日、5月4日、11日(金) 定例会議

- 内容**
- 4月27日
 - 1) コンサルタントによるプレ・ワークショップ
 - 5月4日
 - 1) 阪神大震災後の住民による自主再建実例の説明
 - 5月11日
 - 1) 仙台東部復興連合協議会の説明
 - 2) アンケートの結果報告
 - 3) 福島県伊達市の都市開発実例紹介

当日の様子 4月27日は集団移転先を想定した図面に、建物の模型を並べてワークショップを開催しました。5月4日は阪神大震災後にマンションの自立再建を手がけた神戸の池上氏を迎えて、復興の具体策を話し合いました。5月11日は福島県伊達市のまちづくり実例を検討し、仙台東部復興連合協議会に関する報告を行いました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においてください)
定例会議: 毎週金曜日 19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

読者からひとこと

●郡山中学校に避難している時、避難所の近所に住むご夫婦がお風呂に招待してくれたのよ。お風呂だけじゃなく、飲み物までごちそうしてくれて、帰りはわざわざ避難所まで車で送ってくれたの。本当にうれしかったなあ。 太白区/齊藤さん

●毎日、朝晩折り鶴を折っています。20日間くらいで約800羽までになりました。手が痛むけど、1,000羽まであと少し。折りあがったら津波で亡くなった息子と嫁のために仏壇の横に飾って供養したいと思います。 若林区/はぎえさん

●南蒲生でサーフショップを経営。毎日河口に通っていたが、震災後は一度も海に入っていない。海や自然と向き合ってきたが、今はどうするのが良いことなのか分からない。自分たちに出来ることがあれば手伝いたい。 宮城野区/山中晋作さん

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

▶グループ討議の後は、話し合った内容の発表と質疑応答があり、二本塚地区からも積極的な意見が出されました



5月9日(水) 第3回六郷東部地区住まい・まちづくり学習会 二木や荒浜からも約40名参加

- 内容**
- 前回のワークショップのまとめ
 - 行政との協働に関する話
 - 地域内移転と現地再建の両立について

当日の様子 東六郷地区の将来像に関する世代別、地域別の希望が示されて、地域内移転希望者と現地再建希望者の背景や心音が明らかになりました。これから作成する復興自主計画は行政との対話によって、速やかに進めるべきであることが確認されました。

問い合わせ先: 代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

被災地レポート

荒浜狐塚農園 (荒浜狐塚地区)

被災した方が利用できる
無料の貸農園がオープン

被災した農家の人たちが無料で利用できる農園が、荒浜地区にオープンしました。海のすぐそばにある若林消防署荒浜航空分署ヘリポートの西側、県道塩釜・亶理線沿いの畑です。オレンジ色の布製フェンスで囲まれた土地は約二千坪。狐塚という狐を祭った祠の北側にあることから、関係者によって「荒浜狐塚農園」と名付けられました。



農園では夏の収穫に向けて作業が始まっています。写真右が末永一さんです

狐塚地区は東日本大震災で甚大な津波被害を受けましたが、農園にした一帯はほかの農地に比べて比較的被害が少なく済みまし。そこで、

地元の農業者有志が地権者たちに掛け合い、ボランティアたちが石やゴミを取り除いて整地し、今年四月末の開園にこぎつけました。一人当たり三十坪(約百平方メートル)を貸し出し、七十人ぐらいが利用できます。五月中旬現在、荒浜地区出身の被災農家約二十人がこの農園を使ってネギやトマト、大根などの野菜を育てています。

五月のゴールデンウィーク明けの日中、農園には、仮設住宅などで暮らす荒浜出身の男女五人の姿がありました。「家にいると将来のことを不安に思ったり、イライラしがちで不健康でした。この農園ができたおかげで、ここに来れば仲間に出会えるし、体を動かすのがとても楽しいわ。野菜は素直よ。愛情を注いだぶんだけちゃんと育ってくれるから。」土をいじりながら充実した表情でその話するのは、家族三人で借り上げ民間賃貸住宅に住む末永美代子さん。夫の一さんと一緒に、トウモロコシやネギを植えていました。「土の

おいを嗅ぎながら体を動かすと、なんだかお腹が空いてくるのよね。それが体にいいんだってば」。微笑みながらもしみじみ話す表情が、とても印象的でした。

待ちに待った農園誕生
願うは利用者の心の復興

「七十歳過ぎの農業の先輩が、仮設住宅で毎日ボートとしていた姿を見て、何とかしてやりたいって思ったんだよねえ」。農園プランの発起人で、地元農業団体「荒浜実行組合」組合長の佐藤善一さんと遠藤伝さんはこう語ります。農業の師で



利用者の皆さんがひと作業を終えて楽しく団らん。「枝豆植えて、採れたらビールと一緒に食べたいわ」

もある先輩たちが、津波で家を失い、農地を耕すことができない状態を見て思い立ち、昨年計画していたのです。

農地の地権者は七人。全員に農園の趣旨を説明し、理解と協力を得て、広大な土地を無償で借りることができました。荒浜実行組合では、農地を整備するための小型耕運機やスコップ、シャベルなど必要な農機具や道具を全てそろえ、利用者の支援体制を整えました。

取材した時は開園から日が浅く、野菜の種類も少なくまだまだ育ち始めたばかりでした。この「みらいん」が皆さんの手元に届くころには、野菜の緑が大地のじゅうたんのように元氣よく茂り、農園を利用している方々が自然の恵みに癒されていることでしょう。



末永美代さんが手塩にかけて育てているネギです

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

巡回相談

地域支えあいセンターによる巡回相談です。生活上の困りごとなどの相談に応じています。

対象 主に借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

巡回相談(6月10日~7月10日 9:30~15:00)

▼七郷市民センター(毎週金曜日)

6月15日、22日、29日、7月6日

▼若林市民センター(毎週火曜日)

6月12日、19日、26日、7月3日、10日

▼沖野市民センター(毎週土曜日)

6月16日、23日、30日、7月7日

▼六郷市民センター(毎週水曜日)

6月13日、20日、27日、7月4日

▼荒町市民センター(毎週水曜日)

6月13日、20日、27日、7月4日

▼JR南小泉アパート(月2回)6月23日、7月5日

※常設の「支えあいセンターわかばやし」もご利用ください

住所 若林区中央市民センター別棟2階(保春院前丁3-4) 022-781-0559

(開所時間/8:30~17:00、相談受付/9:30~15:00、休/日・月曜日、祝日の翌日、年末年始)

☎ 022-217-7234 仙台市社会福祉協議会 中核支えあいセンター

バラ園見学バスツアー参加者募集

みやぎ生協仙塩ボランティアセンターが、被災地応援企画として、登米市迫町のバラ園見学&花摘み体験バスツアーを企画します。バラの香りに包まれて、からだをリフレッシュしましょう。

対象 東日本大震災で被災された方

時 7月9日(月)8:30仙台駅西口バスプール出発(15:00仙台駅着予定)

内容 フリーリアバラ園見学など

参加費 500円(昼食費含む)

定員 40名 ※お子様は座席の都合上ご遠慮ください

申込方法 お名前・住所・電話番号をご記入の上、はがき・FAX・メールのいずれかで申込んでください(1通あたり2名まで)

申込締切 6月25日(月) ※応募多数の場合抽選。結果はハガキで連絡

問・申 みやぎ生協生活文化部 仙塩ボランティアセンター(八島) 〒981-3194 泉区八乙女4-2-2

022-218-5331、FAX022-218-5945

Eメール: sn.mvc_sendai@todock.jp

2012年音楽の贈り物コンサート in 若林

震災で被災した方々が主催して行うコンサートです。仙台市内の学校吹奏楽部や、市民公募吹奏楽団「わかばやしBand」が出演します。入場無料。

対象 どなたでも入場できます

時 6月17日(日)13:00~

所 若林区文化センター

☎ 090-8258-2531 ステップみやぎ実行委員会

震災で汚れた写真の洗浄をしています

泥や海水で汚れた写真はありますか? 仙台市内で活動する震災復興ボランティア団体「おもいでかえる」が、写真をきれいに洗浄してお返しします。

【ボランティアも同時募集】

写真に興味のある方、写真洗浄のボランティアをしませんか? お気軽にお問い合わせください。

☎ 070-5473-3585 おもいでかえる(金谷、千葉)

健康相談などのお知らせ

電話: 022-282-1111 (若林区家庭健康課・障害高齢課)

| 相談名 | 開催日 | 時間 | 会場 | 内容 | 担当 | 問合先 |
|-------------|---|-------------|------------------|---------------------------|---------------------------|-----------------|
| 母と子の健康相談 | 6月22日(金)★ | 13:30~14:30 | 若林区役所3階 | 育児の心配や母と子の健康についての相談 | 保健師・栄養士 ★の日は歯科衛生士もおります | 家庭健康課 内線6772 |
| | 7月6日(金)★ | 9:30~10:30 | 六郷保健センター | | | |
| | 6月19日(火)★ 7月10日(火) | 9:30~10:30 | 七郷保健センター | | | |
| 子どものこころの相談室 | 6月14日(木) 6月28日(木) | 午後・予約制 | 若林区役所3階 | 震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約) | 児童精神科医 | |
| こころの健康相談 | 6月13日(水) 6月21日(木) 6月26日(火) 7月5日(木) | 13:30~16:00 | 若林区役所3階 | こころの健康に関する相談(要予約) | 精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など | 障害高齢課 内線6752 |
| 震災こころの相談 | 随時 (土日祝日除く) | 8:30~17:00 | 若林区役所1階窓口など | 震災によるストレスやこころの相談 | | |
| 健康づくり講話 | 6月20日(水) | 13:30~14:30 | 若林区役所3階 健康教育室 | 「お口の機能を高める口腔ケア」 | 家庭健康課歯科衛生士 | 家庭健康課 内線6785 |
| 健康づくり相談 | | 14:30~15:30 | | 健康相談 | 保健師、栄養士、歯科衛生士など | |
| 高齢者総合相談 | 随時 (土日祝日除く) | 8:30~17:00 | 若林区役所1階窓口など | 高齢者の健康や介護・福祉の相談 | 保健師など | 障害高齢課 内線6307 |

けんいろうコラム

こころ編

月同じ仮寝の
かりね

露の宿ってが!?

十三年前に一百二歳で亡くなった老父が生前よく言っていたもんです。自分の人生を語るのに百年はかかるって。とは云っても、父にとって一世紀も生きた人生ですが、きつとあつといふ間の歲月だったのかも知れませぬ。それに、生きるってことは、本当はとも寂しく儂いものなのでせうね。だってほら、嬉しいことや楽しいことは長くは続いてくれませんし、逆に辛いことや悲しいこと、口惜しいことや腹の立つことは、この身にしつこく纏はり付いて、なかなか離れてくれませんものねえ。

で、考へましたよ。これまでは活きる命(活命)の方にばかり齷齪としてをりましたけど、実はこの世に両親を縁として誕生した時から、誰も皆例外なく、活きる命と同じ割合で必ず死すべき命(死命)をも生きてあるといふことがこの身にすでに組み込まれてゐたんだってことを、この際すっかり自覚して日暮らしをして行かうってね、思ひました。昔のお侍さんは常にこの死する命を意識して、日々心身を鍛錬してゐたさうです。未だ「憲法九条」も「銃刀法」もなかったたので、各自武器を所持してたわけですから。

徳照寺 住職 佐藤和丸

佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A B C D

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | B | 8 | |
| 9 | 10 | | | C |
| 11 | 12 | 13 | 14 | |
| 15 | | | D | |
| 16 | A | 17 | 18 | 19 |
| 20 | | | | |

タテのカギ

- ①その形状が名前の由来。仙台の名産となった笹○○○○
- ②「神子」とか「巫女」と書きます
- ③深く考えず、工夫のないこと
- ④仙台平野の風土から生まれた美味、長○○漬け
- ⑤陰暦で5月は皐月、では6月は?
- ⑦日本で初めて金を産出したことにちなんだ施設、遠田郡涌谷町にある天平○○○館
- ⑩間違った知らせ
- ⑫手間がかからず、簡単で便利なこと
- ⑭油揚げを入れればキツネ、生卵を入れたら?
- ⑮○○○汁は、冬野菜と、この魚のぶつ切りをいれた汁もの
- ⑯三陸の夏の珍味。海のパイナップルとも呼ばれます
- ⑰「猛者」の読み方は?
- ⑱○○振り合うも多生の縁

ヨコのカギ

- ①葉菜山、陶芸の里があるのは○○町
- ③大勢で行動するとき、これをそろえないとまとまりません
- ⑥主原料に落花生の粉を使うお菓子で、仙台駄菓子として紹介されることもあります
- ⑧俗に、相撲の土俵に近い席は、○○かぶり
- ⑨家族でレジャー、パパやママからはぐれちゃうと・・・
- ⑪ある人物の作品だけの展覧会
- ⑬山元町で海の幸を使った名物といえば、○○○ご飯
- ⑮入学や入社が一緒
- ⑯焼けたら千切りキャベツにソースをかけて一緒に食べるのが気仙沼流のB級グルメ
- ⑰政宗公の時代から、伝統の製法で辛口の風味を持ち味とする、仙台○○
- ⑱胸骨と肩甲骨とをつなぐ骨

前回のこたえ

A ス B ズ C メ D オ E ド F リ

でした。

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |

編集後記

東部道路西側ではトラクターが一斉に動き出し、田植えの準備が始まりました。一方、東側は土がむき出しのままです。来年の今頃は、六郷も七郷も緑のじゅうたんになって欲しいですね。(きくち)

仮設住宅の集会所で出会った中学生の呂水花ちゃん。目下の目標は三つ編みを覚えることだそうです。肩までの髪がもう少し伸びたら一緒にレッスンをする予定。今から楽しみです。(佐藤)

情報提供のお願い

「みらいん」は、皆さんと一緒に作り、歩む情報紙です。紙面に対するご感想や、紹介したい人や場所、今抱えている思いなどのコメントをハガキ、FAX、メールでお寄せください。読者の皆さんの思いを、紙面に反映していきます。

送付先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12

「みらいん」編集部

F A X : 022-390-5756 e-mail : kawara@mmmm.or.jp